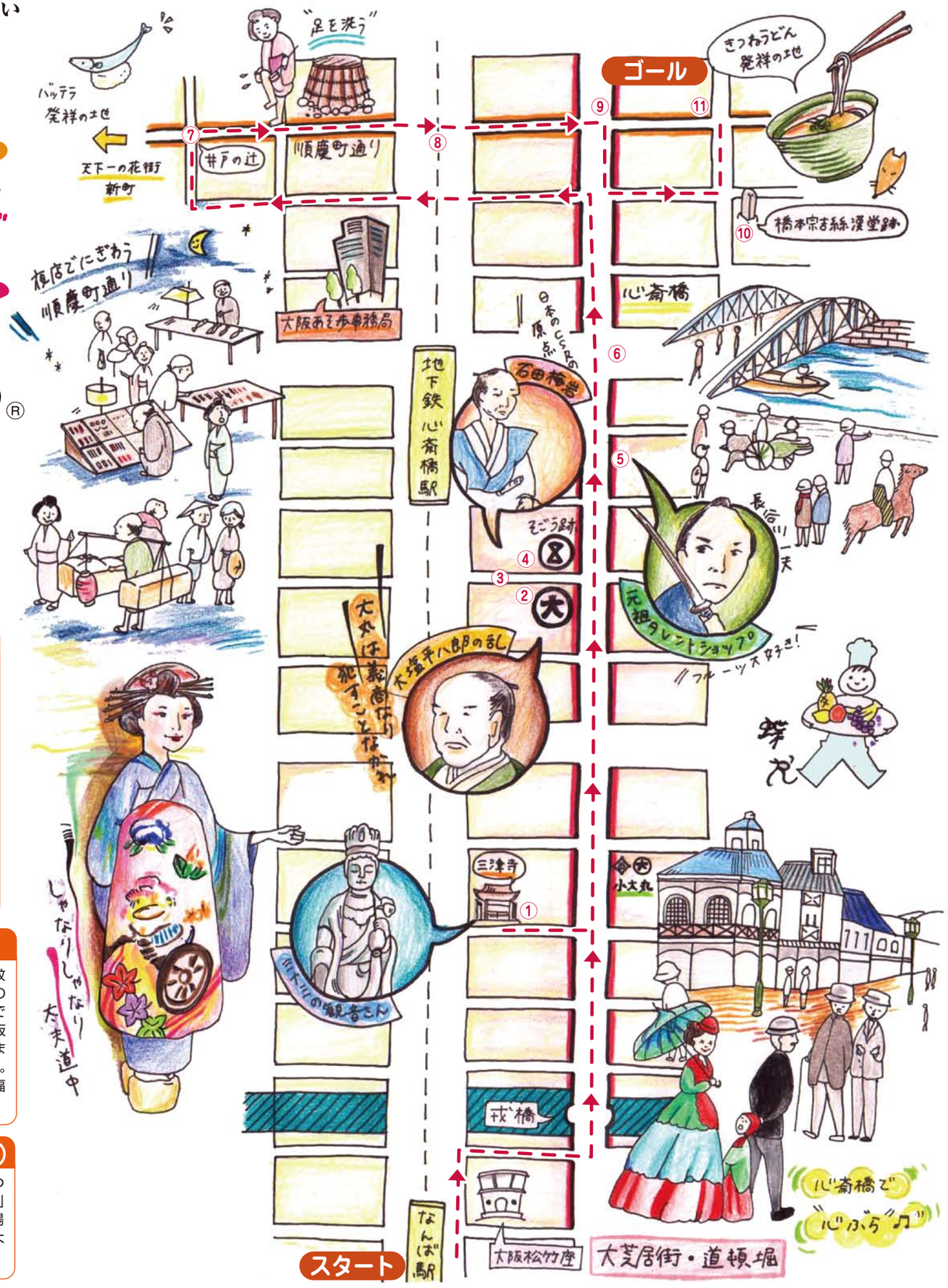
大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪あそ歩 OSAKA ASOBO®

心斎橋ぶらぶらモダン散歩

～三津寺さんからバッテラ発祥の地、絲漢堂跡まで～

江戸時代、「日本の商業の中心地・船場」から「天下一の花街・新町」「大芝居街・道頓堀」を繋ぐ道筋であったことから、心斎橋筋の賑わいが始まります。明治33年(1900)には本屋20軒、舶来商15軒、時計商18軒、洋傘商11軒、洋反・洋服商5軒が軒を連ね、文明開化が浸透。「東の銀座、西の心斎橋」と並び称され、「心ブラ」が大流行します。今も大阪一のブランド力を誇る心斎橋筋を、「心ブラ」してみましょう。



①七宝山大福院 三津寺

真言宗御室派準別格本山。天平16年(744)、聖武天皇の勅命により、行基菩薩が応神天皇の御墓所跡に創建したと伝わっています。このあたりは、『日本書紀』や『万葉集』には「御津」とも書かれ、白砂青松の景勝地だったといいます。中世には石清水八幡宮の荘園となり三津寺庄、後に三津寺村と称し、元和年間(1615～1624)に大坂三郷の南組に編入されました。本堂は文化5年(1808)建立の木造建築。倉裡は御堂筋拡張により境内の4割が削られたのを機に、昭和8年(1933)竣工された鉄筋コンクリート建築です。昭和20年(1945)の空襲でも奇跡的に焼け残りました。

②大丸心斎橋店(本店)

享保11年(1726)「松屋呉服店」として開店。大丸という商標は「大という字は一と人を合わせたもので、丸は宇宙・天下を示す」ことから、天下第一の商人であれという志が込められています。元文元年(1736)に業祖・下村彦右衛門正啓(福助人形のモデルという説あり)が定めた事業の根本理念「先義後利(義を先にして利を後にする者は栄える) 」を代々継承しており、貧民に食料や衣服を分け与えるなど慈善家としての評判も高く、大塩平八郎の乱(1837)では「大丸は義商なり、犯すなかれ」と、焼き打ちを免れています。昭和35年(1960)下期から昭和43年(1968)下期には日本の小売業界売上一位を記録しました。ウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計の本館は、日本の百貨店建築の最高傑作として名高いです。

③心学明誠舎跡(創設の地)

町人に石門心学の道話を講釈し、心学者たちの修行の場となった「心学講舎」の一つです。石田梅岩の孫弟子・三木屋太兵衛が天明5年(1785)、飾屋町の自邸内に創設しました。その後幾多の変転を経て、平成19年(2007)エール学園(大阪市浪速区)に事務局を設置。江戸期以来現在も活動している、全国唯一の心学講舎です。石門心学は、石田梅岩を開祖とする倫理学で、当初は町人を中心に広まり、江戸時代後期には百姓や武士にまで普及、全国的に大流行しましたが、明治期に衰退しました。商人に対する批判が強かった時代に「商業の本質は交換の仲介業であり、その重要性は他の職分に何ら劣るものではない」と説き、また「二重の利を取り、甘き毒を喰ひ、自死するやうなこと多かるべし」「実の商人は、先も立、我も立つことを思うなり」という商人の心得を示した石門心学は「日本のCSR(企業の社会的責任)の原点」として、現在も注目されています。

④そごう心斎橋本店跡

天保元年(1830)、十合伊兵衛が坐摩神社の南隣に古手屋(古着屋)「大和屋」を開業したのが創業です。明治27年(1894) 心斎橋筋に大和屋を移転、「十合呉服店」と名乗り、大正7年(1918)に大阪本店を増築開店、本格的な百貨店となります。全国各地に新会社を設立して積極的な多店舗展開を行い、平成2年(1991)度にはグループ売上高が日本の百貨店一位となるまで拡大しましたが、平成12年(2000)民事再生法申請、そごう大阪店も閉店。平成17年(2005) そごう心斎橋本店として新装開店しましたが、平成21年(2009)閉店、土地と建物は隣接する大丸に買取られ、同年、大丸心斎橋店北館として開店しました。

⑤フルーツパーラー蝶屋跡(元祖タレントショップ)

昭和8年(1933)、長谷川一夫(旧芸名・林長二郎) がプロデュースした「蝶屋」が、日本で最初のタレントショップといわれています。「食べ物はほとんど好き嫌いはありませんが…果物好きが昂じて、戦前大阪でフルーツパーラーを開業したくらいです。(舞台・銀幕六十年)」

⑥心斎橋

元和8年(1622) 、三栖清兵衛、池田屋次郎兵衛、伊丹屋平右衛門らと共に長堀川開削の中心を担った伏見町人・岡田心斎が、同時期に町の往来の便のため、架橋したことが橋名の由来だといいます。江戸時代は長さ18間(約35m) 、幅2間半(約4m)の木橋でした。明治6年(1873)ドイツから輸入された鉄製の弓形トラス橋に架け換えられ、人々の注目を集め、明治42年(1909)には大阪初の石造りアーチ橋となり、ガス灯が灯されました。昭和39年(1964)、長堀川の埋立後は歩道橋に移築されましたが、平成9年(1997)クリスタ長堀完成時に石橋の一部が復元され、再び高欄やガス灯が設置されました。

⑦順慶町井戸の辻

町名は、この地に筒井順慶が館舎を設けたことに由来しています。この交差点は、かつてこの地にあった浄国寺(現在は下寺町)の古井戸跡があり、凡6尺(約1.8m)の桶が据えられて、井戸の辻と呼ばれていました。この井戸は「足洗井」とも呼ばれ、新町の傾城遊女が廓を出る時に、ここで足を洗ったといいます「(足を洗う」=「素人になる」の語源)。この桶は明治維新後、役所に取り壊されました。

すし常創業の地(バッテラ発祥の地)明治24年(1891) 井戸の辻に開業した寿司屋「すし常」が、大漁で価格も安いコノシロをネタにした押し寿司を売り出したところ、大好評になりました。片身を開いて船形にしたコノシロが、銀シャリの上でピーンと尻尾を振る姿を、ひいき客が「バッテラ(オランダ語でボートの意) 」と呼びはじめ、他店にも用いられるようになって、いつしか定着したといいます。その後コノシロの値上がりから、より値の安い鯖を代わりに使い、その生臭さを消すために昆布を上にのせるようになりました。「すし常」は現在、大阪市中央卸売市場で営業しています。

⑧勘四郎町(旧町名)

町名は、平野郷に住んでいた有力町人末吉勘四郎に由来しています。「横堀の芝居」と呼ばれた芝居小屋や水茶屋で賑わいましたが、元和元年(1615)の大坂夏の陣で全焼。寛永3年(1626)、官許の芝居街は道頓堀に移されることになります。

⑨心斎橋筋商店街発祥の地

江戸時代、心斎橋筋の商業の中心は、順慶町と心斎橋筋の交差する辺りでした。順慶町は新町廓へ通じる道であり、「順慶町の夕市は四時たへせず、夕暮より万灯てらし、種々の品を飾りて東は堺筋、西は新町橋まで両側尺地もなく連りけり、これを見んとて往かへりて群をなし・・・(『摂津名所図会』・1798年)」と、夜店が特に賑わったといいます。その後「今は心斎橋筋より南へつづきて島の内及び道頓堀戎橋まで夜店ありて、年々に賑はひを増せり(『摂津名所図会大成』・1855年) 」と、江戸時代後期、南方に賑わいが延びていきました。明治6年(1873)の地租改正当時、この交差点辺りが大阪市内の一等地だったといわれています。

⑩橋本宗吉絲漢堂跡

橋本宗吉(1763～1836)は、北堀江に住む傘屋の紋描きの職人でしたが、極貧の中エレキテル(起電機)の実験などで才能を発揮、天文学者・間長涯らの援助で江戸へ出て、大槻玄沢に師事、蘭語を学びました。帰坂後、医業を開くとともに天文学・医学の蘭書を翻訳。また関西最初の蘭学塾・絲漢堂をこの地に開きました。弟子に中天游がおり、その門下に緒方洪庵、そして福沢諭吉へと、大坂の学問の系統が続きます。

⑪松葉屋(きつねうどん発祥の地)

明治26年(1893)、初代主人の宇佐美要太郎が「きつねうどん」を考案しました。当初は稲荷寿司の「揚げ」を素うどんに添えて出していましたが、お客さんが「揚げ」をうどんに入れるのを見て、最初から入れて出すようになったといいます。

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内) 「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。　http://www.osaka-asobo.jp　または 大阪あそ歩 でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。